

## 地域懇談会実施報告書

自治会名 栄町自治会

開催日 平成19年9月22日(土)

時間 19:05 ~ 20:25

(町内視察 18:30 ~ 19:05)

開催場所 大原団地集会所

参加人数 46人

懇談内容 別添 議事録

質問等検討課題・後日回答を要するもの

---

---

---

---

---

---

対応

---

---

---

行政側参加者 氏名

庶務課行政管理担当 遠山 勝

庶務課秘書担当 西山 賢治

記録者 遠山 勝

## 栄町自治会地域懇談会会議録

平成19年9月22日 19:05～

### 1. 自治会長あいさつ

定刻になったので地域懇談会を始めさせていただく。先程、市長に同行いただき、市営団地A棟からオリンピック道路の大原町地籍のクランク箇所や木彫りの館まで現地をご視察いただいた。これからの予定であるが、最初に市長から大町市第4次総合計画のお話を伺い、その後懇談を行っていただきながら現地をご視察いただいた内容の整理をしたいと思います。

### 2. 市長あいさつ

昨年の選挙に当たったの公約は、できるだけ市民の皆さんに身近な市政を進めるため、情報公開をはじめとして市からも様々な情報を提供する一方、市民の皆さんにも市政にご参加いただきながら協働のまちづくりを進めていきたいというお話をさせていただきました。

就任後、大町市第4次総合計画の策定に着手したが、本計画は公約などをベースにしながら大町市の今後の10年を見通したものであり、大町市総合計画審議会において昨年の12月まで基本的な事項について検討いただいた。そのなかで、10年後の大町市のあるべき姿を「美しく豊かな自然 文化の風薫る きらり輝く おおまち」としたものである。

「美しく豊かな自然」、これは後立山連峰、特に、爺ヶ岳や鹿島槍ヶ岳などの北アルプスの絶景が平地から直接見られるのは大町市と白馬村だけであると思う。そうした美しく豊かな自然、さらには八坂・美麻との合併により、新しい市としてスタートしたが、八坂地区・美麻地区は豊かな自然に囲まれた中山間地であることから、これらの新たな自然の要素も加味されたところである。自然は、この地域に暮らす人々にとっても大切であるが、この自然を求めて多くの観光客が訪れている。そうした観光客にも楽しんでいただける、そのような自然を大切にしていきたい。

「文化の風薫る」、当地は、仁科氏以降の、もちろん縄文時代や弥生時代の遺跡も数多くあるが、主として中世以降の歴史や文化が色濃く残っている。先程、栄町内を歩かせていただいた折に、大原町の皆さんのお囃子と神楽にお行き会いましたが、そのような非常に長い歴史に裏打ちされた文化が形成されている。そうした文化も大事にしながら、過去の文化だけでなく現在の文化や芸術活動も大事にしていきたい。

(以下「大町市第4次総合計画ダイジェスト版」により説明：記録省略)

### 3. 懇談

#### 保育料・給食費の滞納について

##### 出席者

一昨日だと思うがテレビの放送で、大町市が保育料や給食費の滞納が県内市町村のなかで一番多いと報道されていた。我々の時代には借金をしてでも支払わなければいけないという義務感があったのだが、生活が困窮している状況でもないのに、給食費や保育料を支払わないという状況をどのようにお考えになれるか伺いたい。

##### 市長

平成18年度の給食費については、年度中途での滞納はあったものの、年度末においては解消している。また、保育料の滞納が県下で一番であるかは確認していない。(後日確認したところ、当市は県下で一番ではないものの、下位にあることが分かった。)

##### 出席者

夕張市の第二候補が大町市だと、それほど財政が厳しいという報道もされていた。

本年4月からは市県民税が大幅に増額となっているが、このような状況のなかで真面目に支払っている方が損をするようではいけないと思う。

##### 市長

保育料と給食費の滞納は先程申し上げた状況であるが、昔の親は子どもたちのことを考え自分の小遣いを減らしても、あるいは、よく言われたことであるが自分の食べるものを減らしてでも子どもたちに食べさせたという、そのような姿勢が倫理観として大切だと思う。また一方で、本当に困っている方々に対しては、光が当たるようにしなければいけない。

市では、保育料、給食費、水道料などのように、事業に必要な経費を市民の皆さんに利用料として負担いただくものが多数ある。負担していただくうえで不公平があってはいけないと思う。

大町市の財政状況が非常に厳しいというお話があったが、夕張市の次であるというのは全く事実ではない。しかし、努力を怠れば、どこの市町村でも夕張市のような事態になる可能性がある。観光事業を中心とした公営事業を行っていた自治体の財政が厳しい状況となっている。公営でスキー場を運営していた自治体は、スキー人口が多い頃は、スキー場の収益を一般会計に繰り出し、道路改修などの財源に充当した時代があったが、スキー人口の減少やレジャーが多様化するなかで、一般会計から補填しなければ経営が成り立たなくなってしまった。

大町市は、直営でスキー場の経営や公営事業を行っているものが少ないことから、その意味では健全であるが、率直に申し上げて新聞などで報じられたように、

大町市の実質公債費比率は21.3である。借金を返済するために、標準的な財政規模の21.3パーセントを占めているということである。これは県下市町村では一番高い比率ではない。厳密に言えば県下81市町村のなかでは16番目である。19市では大町市が一番高いのは事実である。

これは、過去に行った事業の実施時期の関係や大町総合病院の施設整備への繰り出しなど様々な要因がある。さらには、合併により旧八坂村・美麻村の借金も引き継いだことから、現在は高い比率となっている。大町市は比較的財政の体力があり、基盤も強いが、いわば健康状態が悪化しつつあり、動脈硬化を発症する心配がある状態であるといえる。

早めに対策を講じていくことが何よりも必要であることから、今後10年ほどは、事業を選択し、必要な事業も着手の時期などを調整して優先順位を設けていく努力をしなければならない時期をむかえている。

第4次総合計画の目的で「財政計画との連動」を視点とし、「市財政の将来展望を踏まえた実現の可能性が高い内容とするため、今後の的確な財政見通しを市民の皆さんに明らかにし、市民の皆さんと行政が財政に対する認識を共有したうえで計画とします。」としている。

市民の皆さんからのご要望も、重要なものから優先順位を付けさせていただき実施してまいりたい。それには、市民の皆さんのご理解をいただくことが何よりも大切であることから、ご理解を得られるために十分な説明責任を果たしていく。

税金の話がされたが、それは国税から地方税に大きな財源が移管されたことによるもので、所得税については昨年減額されているところである。所得税の減額分が市税に振り替えられ、さらに、景気を回復させるための特例減税措置が昨年をもって終了したことに伴い増税となっている。国税がそれほど減らないのに、市町村民税だけが増えたという印象をお持ちだと思うが、国の税制度上の施策で行われたものであるのご理解いただきたい。

人口や就業者数が減少しているなかで、社会を維持していくために、このような税制が組まれているところであるが、工夫やスリム化したうえで、なお不足する経費を税金で補うというところまでは至っていない。見直しをしなければならない事項は、国にも県にも大町市にもあるはずである。可能な限りコストを減らし、それでも不足する場合に、初めて税金あるいは増税ということの検討があるべきだと思う。

#### 子どもの挨拶について

##### 出席者

この頃、一番身近に感じていることは、子どもたちがほとんど挨拶をしないことである。子どもの見守りを行っているが、通る子どもの10パーセントくらい

しか挨拶をしない。こちらから声をかけても挨拶が返ってこない。一番の原因は家庭における親のしつけだと思うが、教育委員会から学校をとおして挨拶のできるような子どもに指導していただきたい。

市長

挨拶は、気持ちがつながり心を開かせるという意味があるそうである。それがやはりコミュニケーション・気持ちを通じ合う原点だと思う。当市を離れて暮らしていたときなどは、挨拶をする子どもはほんのわずかしかなかったように思う。声をかけても、げんな顔をしてすれ違って行く子どもが多かった。しかし、ここ大町は声をかければ、おそらく半数以上の子どもから挨拶が返ってくるのではないかと思う。これは、もちろん地域のコミュニケーションのためにも大事なことであるが、子どもたちの成長にとっても、声をかけていただき挨拶を交し合うことが大事であると思う。これは本来家庭が担うものであると思うが、学校においても補完する役割があるので教育委員会をはじめ、青少年健全育成市民会議やPTAなどの会議などを通じ機会あるごとに依頼していきたい。

文化会館のトイレの洋式化について

出席者

文化会館で開催された大町地区の敬老会に付き添いで参加したが、女性トイレのことでお願いしたい。

1階北側の奥にあるトイレは和式と洋式があるが、洋式が一つしかない。敬老会となると、腰や膝の悪い方が大勢見えたが、洋式だと座ってできるが、和式だと座って立ち上がるのに時間がかかり、かなり混雑していた。洋式に換えていただけないものかお伺いしたい。

市長

文化会館のトイレは、ほとんどが和式である。皆様のご家庭でも改修をする時には洋式に換えている方が多いと思う。市でも新しく造るトイレは洋式をできる限り多く取り入れているところであるが、既存のトイレの改修については財政計画のなかで検討させていただきたいと思う。

下水道整備について

出席者

第4次総合計画の目指すまちのテーマの「上下水道の整備」について、大町市の下水道整備は、この先、進まないのではないかという話をされる方が結構いる。実際のところ、今後平地区や常盤地区へ進んでいく望みがあるのかお伺いしたい。

市長

下水道は平成22年までに全て完了する計画で進めている。市民の皆さんの生

活の利便さに直結することなので、下水道整備は平成22年に完了するよう事業計画を策定し、この計画に沿って作業を進めている。

何年か前に、全国的に下水道整備区域の見直しが行われ、大町市においても相当大きな見直しを行った。高度経済成長の時代に下水道事業が全国各地で始まったが、できる限り広い区域を下水道にしていくということから、大町市においても相当広い範囲を下水道区域としていた。その後、経済活力が低下し、人口も想定していたほど増加せず、むしろ減少する状況となった。従来計画では、家が散在している地域においても下水道を布設する計画であったが、その後の見直しにより合併処理槽・浄化槽で処理する方式に変更され、下水道を供給する計画エリアを狭くした計画エリアから外れた地域は、農業集落排水事業であるとか特定環境保全公共下水道事業で整備し、さらに、そうした小規模な排水処理施設が設備できない地域においては合併処理槽で整備をすることとされた。

見直しが行われた結果、公共下水道については、平成22年までに完了できる見通しとなった。下流から順次行っているもので、市内でも既に完了した地域と、これから実施していく地域もあるが、今後着実に進めてまいるのでご理解いただきたい。

#### 栄町の要望事項について

##### 会 長

栄町としてのお願いをしたいということで、先程は、課題となっている箇所を全てご覧いただいた。そこで改めてお願いをしたいと思う。

##### 駐車場の舗装について

駐車場の凹凸が非常に激しく侵食状態となっていることから舗装をお願いしたい。

##### 来客用の駐車場の確保について

来客用・医療・介護用の駐車スペースがない。そのため、この集会場の東側の三角地帯には、毎日7・8台、多い時には10台近く駐車している。生活していくうえでどうしても2台必要だという世帯が増えてきている。E棟やA棟においては2台の世帯が多い。これにはやはり生活がかかっているという背景がある。これから住宅を建て替えていくなかで、最初に建て替えられた栄町で駐車スペースが1台分しかないという問題がある。しかも、3階建てで空き地が全くない。提案としては、A・B・C棟は計画段階で公民館の駐車場として三角地帯を確保してあるが、その場所に当面、2台目の駐車スペースを確保していただきたい。集会場の駐車場という名目でも結構なので計画段階での約束を果たしていただきたい。E棟の駐車スペースについては、保育園改築計画でいけば、保育園に行く道路は、E棟側へ曲げなければいけない。現在の道路も含めて計画を策定する

段階で、医療・介護、来客用さらには2台目の駐車スペースを確保いただきたい。

A棟・B棟のエレベーター設置について

A棟・B棟の入居者は、60歳以上が約60パーセントである。5年後には約80パーセントが60歳以上となる。エレベーターを一刻も早く設置していただきたい。ぜひ、実施計画どおり21年度にA・B棟ともお願いしたい。

A棟からE棟までの雪の吹き込み対策について

主管課からは対策が必要だということで計画され、19年度に実施するという計画であったが予算が付かなかった経緯がある。復活していただき、エレベーター設置とともに実施していただきたい。

道路関係について

E棟の北側の道路を通る子どもは三十数人である。それと栄町と中原町の一部の子ども三十数人が一緒となって、木彫りの館付近を通る子どもは約70人あるいは70人を少し超える。特に、E棟北側の三叉路では、滑った車により交通事故が起きそうな場面にも遭遇している。道路拡幅を含めてお願いしたい。もう一つは、木彫りの館の交差点を含めて歩道等の通学路対策をお願いしたい。

率直に申しあげて、実質公債比率の高いのに驚いた。その一つの大きな原因として合併を契機として16年度と17年度の公債比率を比較してみると、極端に増加している。財政が非常に悪化している状況のなかで、これから大町市がどうなるのか心配であるが、そういうなかでも介護や医療など様々な要望も含めて、今申し上げたようなことについてもぜひご配慮いただきたい、こんなことをお願いしたいと思う。

細かくは文書にして改めてお願いする。

**市長**

先程30分ほどかけて現地を確認しながら見させていただいた。

まず、市営住宅の関係では、駐車場の路面が経過とともに掘れてしまい雨が降ると「くるぶし」まで浸水するというお話を伺った。エレベーターであるが、特に、年配の方が2階・3階にお住まいになっており、さらに入居者の約6割の方が60歳以上というような事情からも理解できるところである。共働き世帯が多いことから2台目の駐車場というご要望もそのとおりだと思う。

自治会からも正式に陳情という形で文書をいただいている。その折にもお話をさせていただいたが、市内には市営住宅が他にも多数あり、市営住宅も県営住宅も改築そのものが進んでいない状況のなかで、栄町は、いち早く鉄筋コンクリート建ての中層住宅に建て替えてをしているが、その他の市営住宅では住居そのものが非常に古く、しかも、市も市営住宅の改築計画に着手できない状況にある。最近になって非公式ではあるが、県から県営住宅の建て替えも今後継続して進めていかなければならない状況のなかで、合理的に、例えば県営住宅と市営住宅と

の交換を行うなどの方法により合理的な管理をしたらどうかという提案も意見交換のなかで出されているので、市営住宅全体のあり方についても併せて検討してまいりたい。その際に、「大原団地だけなぜ良くなるのか。」という声も心配になるので、ご理解をいただきながら調整していきたいと思う。

雪の吹き込みについては、ビニールシートを仮設し、外廊下に吹き込む雪だけでも少なくなれば、水が溜まるとか、あるいは凍結するという状況は避けられるかもしれないので持ち帰って工夫をしてみたいと思う。

2台目の駐車場であるが、なかなか難しい問題がある。県内で2台目の駐車場を無償で提供している例は、県営住宅でも市営住宅においても少ないが、あるいは存在しないのではないかと思う。集会施設東側の三角地帯の利用や来客の際には集会場の駐車場を利用されるなどの対応をいただければありがたいと思う。

広大な空き地の草刈を皆さんで行っていただき感謝申しあげる。広大な空き地を利用して、今後、こぶし保育園の改築計画も具体化してくる。園児数が減少していることから保育園の統廃合も含めた全体構想のなかで改築計画も決定されるのではないかと思う。

例えば、こぶし保育園がこの空き地を有効活用して配置される場合には、残地の活用計画も決まってくるので、お話しのあった道路の付け替え計画なども含めて、総合的に整備ができるよう検討してまいりたいと思う。

**会 長**

通学路問題であるが、特に、E棟北側の道路の狭い箇所の一部改良だけでも先行して実施いただきたい。ぜひご検討されたい。

住宅の耐震診断について

**出席者**

9月1日に防災訓練を実施いただき、この集会所も近隣地域の第一次避難所としていただいた。これを機会に防災意識も高められたのではないかと考えている。

そこで心配なのは、住宅の耐震問題である。市からも2ほど年前から説明をいただき、診断も受けたが、昭和57年以前の持ち家の方は、ほとんどの方が補強もしたいが生活の問題もあり踏み切ることができないのが現状ではないかと思う。

はたして、子どもたちが入居してくれるのか、そのようなことも考えたら、200万円・300万円という投資をすることは到底できない。できるものなら、行政としても、そのような方の住宅に対しても配慮いただきたいと思うが、お考えはどうか。

**市 長**

栄町は、今回の防災訓練のモデル地区になっていただいた。第一次避難所とし

てこの集会所に集まれ、さらに、西公園グランドへも大勢の皆さんにお越しをいただき感謝申しあげる。私は、訓練終了後の挨拶のなかで「災害を不慮の事故・不慮の災害にしてはいけない。交通事故は予測できない、まさに不慮の事故であるが、災害特に、地震はその発生が予測できないことからすれば不慮の災害ではあるが、必ず発生するというなかで、いざ起きた時に日ごろの備えによって災害による被害を最小限に食い止めていきませんか。」と申し上げた。

災害が発生した時にどうするか、今できることから考えていく必要がある。県や市の制度においては、住宅の耐震診断や耐震改修に対する助成制度もある。耐震改修をするとなると少し手を加えただけでも100万円位はかかってしまう。助成を受けても相当の自己負担があり、耐震改修に合わせて別の箇所も直すとなると、さらに費用が増加する。しかし、自分の命は自分で守るという原点からも、耐震診断を受けていただき、耐震改修も様々な方法をご検討いただければありがたいと思う。常盤の須沼地区の地域懇談会に伺った折にも、最初にその話が出された。須沼公民館は、建物が古いうえに集会施設ということから壁と柱が一般住宅に比べて少なく倒壊の危険性があるということで、第一次避難所を地区から離れた別の施設に変更された。地区の中心部に建設されている公民館が危険だから遠くの避難所まで行かなければならない。何とか公民館を改修しようではないかという話をされる方がおられたが、日ごろから身の回りの備えや、いざ起きたときにどうするかということをご家庭で相談したり話し合いをいただければありがたいと思う。

**会 長**

我が家も耐震診断を受けた。一番最初に避難所の厄介になるのは我が家ではないかと思う。最悪の状態である。保育園が建設されると、避難所は集会所ではなく新しい保育園が指定されると思う。その時、一番真っ先に厄介になるだろうと思っている。そういう人が私以外にも結構いると思うので、ぜひ一度耐震診断を受けていただきたい。耐震診断の後で住宅を改修するとなると、はたして私たちの後にこの家に住む者がいるか、費用はどのくらいか、そのようなことを総合的に考えなければならないと思うと憂鬱になる。実際自分でやってみてそう思う。それでもやはり自分の家がどういう状態に置かれているか冷静に見つめるためにも耐震診断を行っていただきたい。私の家では、11月にさらに一歩進んだ耐震診断を受けることにしている。なるべく多くの補助をお願いしたいところである。

4. 閉会            市長御礼のあいさつ

【20時25分：閉会】